

< 栃木地域 >

■ 円通寺のとっ鉦水

のどがかわいて困^{こま}った弘法^{こうぼう}大師^{だいし}は、一件の家を見つけて立ち寄り、水を乞^こうた。その家は、老婆^{ろうば}一人で留守^{るすばん}番^{ばん}をしていたが、旅^ぼの坊^{ぼう}さんが困^{こま}っているのに同^{どう}情^{じょう}して、遠くまで水をくみにいってくれた。

それを知^ちった大師^{だいし}が、とっ鉦^{みっきょう}（密教^{みっけう}の用具^{ようぐ}）で、大地^ちを突^つくと、不思議^{ふしぎ}なことに水^{みづ}がこんこんと湧^わきだした。

それが、城内^{じやう}円通寺^{えんつうじ}の「とっ鉦^{みっきょう}清水^{しみず}」であるという。とっ鉦^{みっきょう}清水^{しみず}は、栃木^{とちぎ}の名水^{なみづ}として有名^{ゆうめい}だった。